

図書室

今月のお知らせ

社会教育センター図書室

☎ 28・5449

休館

蔵書点検等の特別整理を実施するため、11月30日(火)から12月12日(日)まで、図書室をお休みします。

新刊

児童書

おかあさんごめんなさい

みやにし たつや 作絵 (金の星社)

ぼく、どろだらけの足で走り回ったり、トイレトーパーで遊んだりして、ごめんなさい。そう言ったら、おかあさんは…。親子で一緒に楽しめる子育て応援絵本。



一般書

炎上フェニックス

石田 衣良 著 (文藝春秋)

脅される「パパ活」女子、女子を狙う「ぶつかり男」、人気女子アナを襲った「ネット炎上」…。コロナ禍の池袋、社会の歪みが生んだ悪意にマコトとタカシが挑む。



一般書

おまえなんか会いたくない

乾 ルカ 著 (中央公論新社)

10年前に北海道立白麗高校を卒業した元クラスメイトたちに同窓会の案内が届いた。高校の思い出に盛り上がる彼ら。しかし「岸本李矢さんを覚えていますか」という書き込みが波紋を呼ぶ。それはいじめで転校した生徒で…。



一般書

共犯者

三羽 省吾 著 (KADOKAWA)

岐阜県で発見された、顔面を激しく損壊された男性の遺体。週刊誌記者の宮治は警察が何かを隠していると疑う。さらに隣県に住む弟・夏樹の言動に不信感を抱き…。



豊山俳句クラブ

手花火や赤い鼻緒を映しけり

山下敬太

秋あかね四方山話に長き影

田村多喜子

有耶無耶に生きて見送る根無し草

坪井昭子

岩風呂の渡り廊下に月の舟

東海林宗義

風鈴をはづし裏木戸閉じにけり

杉浦みどり

秋風をはさみて届く回覧板

水野真弓

伏す母に風が届けし今朝の秋

坪井径子

秋の夜は赤きワインと雨音と

谷崎 琴

釣瓶井の残る廢屋秋しぐれ

岡島 齋

赤トンボ十歩あるひで見失ふ

高木須磨子

カーテンのなき西向きの晩夏光

青山とも子

バラ銭をにぎる少年日焼けて

青山克己

豊山歌壇掲載終了のお知らせ

昭和61年1月から「椎の会」による歌壇を掲載させていただいておりましたが、椎の会閉会に伴い、掲載を終了させていただきますこととなりました。

9月下旬に、主催者代理の方から、これまで長くご愛読いただいた読者の方へお礼の手紙が届きましたので、ご紹介させていただきます。

昭和61年、豊山町に初の短歌クラブが発足しました。八所神社にある古木の「椎」の木にちなみ「椎の会」と名付けました。豊山町に生まれ育った水野笑子が発起人でした。当時、水野笑子は歌誌「青虹」の同人として活動していました。

最初の会には19名の会員が集まりました。毎月「椎の会通信」を発行し、平成29年3月、375号で最終号となりました。会員も豊山町外の方々も多く入れられました。が、高齢化に伴い、出席される方も減り、困難な事態となったのです。その後10名前後の会員にて「椎の会作品抄」を発行して参りましたがやはり高齢化には抗えずこの度閉会することとなりました。

長い間ご愛読して頂いた方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

主催者 水野笑子
代理 一柳千鶴子

編集後記

11月は紅葉の季節である。紅く染まった山々や草木は壮大で美しく、その光景に目も心も奪われる。自粛生活で鈍った体を動かすのも兼ねて、今秋は紅葉を見に出かける方も多いのではないかと鮮やかに彩られた葉は、見ごろを終える頃枝から離れ、地面に静かに降り積もる。枯れ枝を見上げ落ち葉を踏みしめる度に心寂しい気持ちになるもの、決して悲嘆することではない。落ち葉はやがて土になり、草木の栄養となつて森をいつそう豊かに育てる。そして次の季節を迎え、眩しい緑を芽吹かせてくれる。▼豊かな森にはさまざまな生き物が集まってくる。木に穴をあけて住む鳥もいれば、地中で暮らす虫もいる。枝の先ではリスが木の実を齧る、シカが草地を駆け回る。異なる生き物たちが各々の生き方をしながら、ひとつの生態系となつていく場所、それが「森」である。▼今月号の広報では、協働フォーラム「とよやまの森」の参加団体を募集している。町という単位でたくさんの方々が集まれば、共通する趣味や特技、悩みや困りごとなど、同じ思いを持つ仲間がいるはずである。すでに仲間を見つけて団体サークルとして活動している人もいればこれから仲間を探したいという人もいれると思う。そんな人々が思いを持ち寄りひとつに集まれる場所、それが「とよやまの森」の目指す姿である。▼ここ最近ではコロナ禍で思うように活動が出来ず、落ち込む日々を過ごされた方も多いことと思う。降り積もった思いはこれからの活動をさらに盛り上げるための栄養となってくれる。思いを芽吹かせ、「とよやまの森」を豊かに育ててくれる仲間の参加をお待ちしている。